

幼稚園の実情を踏まえて、様々な運動動作へとつながる運動遊びの実践例

学校名 滑川市内保育所(園)、幼稚園 10施設(富山県)

全校幼児数 361名(男児194名 女児167名)
(問合せ先) 滑川市教育委員会 生涯学習・スポーツ課
電話番号 076(475)2111(内線255、256)

メールアドレス y_hamazumi@city.namerikawa.lg.jp

1 研究のねらい

各所園から自分の園で幼児に必要と考える運動について要望を聞き、運動遊びを通して子供たちを指導するとともに、どのような運動遊びをすればよいかを各所園の職員に見学してもらう。

2 研究の概要

年齢や動作の獲得状況や各所園の実情に応じて、多様な動きにつながる運動遊びを行い、総合的な運動能力の向上を図る。また、各所園の職員が見学することで、効率的な指導方法や、安全に配慮した補助の方法を学び、普段から活動できるように取り組む。

○実践プログラムの紹介

□ 地域や幼稚園等の実情を踏まえた特色ある遊びの例

各所園によって、指導が困難なことや、子供たちのこういったところを育てたいといった希望から、実践プログラムとして可能な5項目に選定し、それぞれの所園で希望の実践プログラムを実施した。



マット運動遊び

- ・前回り(でんぐり返し)
- ・側転 など



跳び箱につながる運動遊び

- ・跳び箱の上を腕力で前進
- ・両足で跳び箱に飛び乗る など



鉄棒につながる運動遊び

- ・ぶら下がり(肘を伸ばさず)
- ・足抜き回し など



ダンスなどの運動遊び

- ・リズム運動
- ・アニマルエクササイズ など



ボールを使った運動遊び

- ・ボールつき
- ・ペアで山なりパス など

○幼児の安全を確保するため配慮(工夫)したこと

- 1 指導者と実施所園職員が、事前に用具・遊具の安全点検と、実践時の補助を行った。
- 2 年齢や動作の獲得状況にあわせ、跳び箱の高さや、鉄棒へのぶら下がり方を変えるなど、指導内容を工夫し、幼児に負担のないよう取り組んだ。

○成果の意義と今後の課題

- 1 実践プログラムを運動遊びとして行うことで、幅広いからだの使い方を身に付けられるとともに、誤った動作を改善でき、各所園でも継続して活動が可能なこと。
- 2 適切な補助による安全の確保と継続性

○ 研究内容

【鉄棒遊びと跳び箱遊び】

からだを引き付ける力や、からだを支持する動作



【リズム遊びとアニマルエクササイズ】

ダンスと動物の動きの模倣による動作の獲得



【グループによる遊び】

遊びの中で鉄棒や跳び箱に必要な力をつける



【個に応じた場の設定】

年齢や動作の獲得状況に応じて場の設定を行う



【運動能力テスト結果表】

本事業に協力いただいた所園の運動能力テストの平均値と2002年の全国平均値との比較

		体支持持続時間	両足連続跳び	ボールキャッチ	ボール投げ	全国平均値に比べ数値が 下回っている項目もある が、前期と後期の数値の成 長幅は全国より大きいもの が多く、成果があらわれて いると考えられる。 前期：6月、後期：2月	
男子	年中	(前期)	18.5	5.83	5.2		4.9
		全国	32.0	6.24	5.3		6.1
		(後期)	41.5	5.62	6.4		6.5
	年長	全国	45.8	5.68	6.4		7.0
		(前期)	36.9	5.06	6.7		6.7
		全国	54.4	5.34	7.6		8.2
(後期)	62.1	4.78	8.4	8.1			
女子	年中	全国	63.6	5.16	8.1		9.2
		(前期)	19.3	6.58	4.5		3.6
		全国	31.4	6.35	4.8	4.1	
	年長	(後期)	48.6	5.85	6.1	4.4	
		全国	44.7	5.74	6.0	4.6	
		(前期)	48.1	5.18	6.9	5.2	
全国	55.1	5.44	7.1	5.5			
(後期)	75.5	4.87	8.4	6.2			
全国	59.0	5.33	7.5	5.6			

参考文献：幼児の運動能力発達の年次推移と運動能力発達に関与する環境要因の構造的分析

【実践プログラム後の取り組み】

実践プログラムに取り組んだ後の各所園での取り組みについてのまとめ

実践プログラム後も、各所園にて継続して取り組んでおり、鉄棒や跳び箱などを使った運動に恐怖心が減り、積極的に取り組む幼児が増え、各所園の職員の指導への意欲も高まり、幼児への取り組みが継続的に行われている。今後は、どこにでもあ
るような物で用具・遊具の代替ができる具体例や、更なる用具・遊具の活用方法の工夫が課題として考えられる。